

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区豊洲4-10-4-106
施設名	おうち保育園とよす

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

海

〈テーマの設定理由〉

・園舎の近くには東京湾があったり、運河に囲まれていることから戸外活動時に船やクラゲなど海の生き物を見る機会がある。身近に「海」を感じやすい環境のため。

2 活動スケジュール

・4月から7月は夏祭りに向けた準備や環境設定を始める。
・7月上旬、圓行事の「夏祭り」実施。
・7月から9月は夏の水あそびで、金魚すくいや海にちなんだ遊びを展開。
・秋以降は大型船を作り室内でも「海」の雰囲気づくりをする。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・主に親子で楽しむ夏祭りの各コーナーや看板に使用する厚紙・テープ類・モール・大型段ボール・アクリル板など。
・水あそびの活動で使う魚のおもちゃ等
・こどもが入って遊べる大型船

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- ・夏祭りの装飾の一部にこどもの手形を用いてこどもも行事に参画する。
- ・夏祭りは様々なコーナーで親子で楽しむ。(魚釣り・タコの足のくじ引き・魚のストラックアウト)
- ・水遊びで色々な魚のおもちゃを使い、海の生き物に親しみを持つ。
- ・段ボールを使った大型船作りは、船の模様のデザインを考え、実際に船にペイントしたり画用紙や花紙で装飾をする。大型船はこどもたちが中に入ることもできるので、遊びだけでなく、卒園の際に「大海原(大きな保育園)への門出」としても使用した。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

- ・春から初夏にかけて日頃から戸外活動で見ることがあったクラゲを制作で再現する。どんな感じの形だったか、色だったか特徴をこども(2歳児)に聞きながら一緒に作って室内装飾に使った。夏祭りの装飾の一部にもこどもの手形を取り入れた、装飾のタコやイカの足に自分の手形が使われていることに興味を示す姿が見られた。
- ・水遊びの活動では夏祭りの余韻を思い出し、魚釣りや金魚すくいをしたり、既成のおもちゃだけでなく、スポンジを魚型に切ってリアルな形を楽しむことによってウロコに見立て「キラキラしているね」「ザラザラしてる」などと感触の違いを感じることが出来ていた。
- ・大型船づくりでは、どのような模様にするか絵の具を塗りながらイメージを膨らませたり、「ここ茶色にする」と言ってお画用紙を部分的に貼っていた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

海や運河が身近にある環境だからこそ、より海の生き物に対する興味が表示されていた。保育者とともに作り上げる装飾は2歳児は自分の感じたことを言語化しながら作り、0歳児・1歳児は触れた感触を楽しんでいた。魚は食べる物という印象だけでなく、魚のモチーフのおもちゃで遊ぶことや変化に気づく活動ができた。特に夏祭りの行事は全て保育者が装飾を作ったのではなく、こどもも参画し、一緒に環境設定を行ったことは「参加・貢献し、自ら楽しむ」という当法人の保育理念にマッチしたテーマや活動ができた。